

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を基に職員一同、利用者に対して接している		事業所の理念と共に職員一人ひとりの目標を作り、努力すべきところを月一回のリーダーとの話し合いの場で確認しあっている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭におき、職員側にたった考え方だけでなく利用者側にたち、常に自分たちの取り組みを振り返り、実践に生かすようにしている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、面会時、また中々、面会来られない方に対してもおたよりなどで、日々の様子を伝え、我々が大切にしていきたいことなどをお話させていただいている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	主に利用者との散歩時に挨拶をしたり日常会話をしたりして、積極的に関わろうとしている		事業所内の行事などに参加していただけるような働きかけを行っていきたい(昼食会、お祭りなど)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の学校関係と交流などを通じて、事業所内だけの人間関係だけでなく、地域の方たちとも関係を深めるよう努めている		町内会のお祭り、運動会、文化祭などに参加してみたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の得意なこと、文化的な活動を披露していただくことで、利用者の楽しみになったり、地域の方々のやりがいにつながっているのではないかと思う		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組むべき課題を意識し、改善できるように努力している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家人、民生委員、ケアマネージャーの方々からご意見をお聞きし、事業所のケアに生かせるように取り組んでいる		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	折にふれ市や区の担当者との連携を心掛け、課題解決を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解を深める機会を持つ必要がある		まずは制度の理解を深める機会をつくり、知らないことが無いようにしていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に対する対応について、感情的にならないよう気をつけ、場合によっては別の職員に対応を代わってもらうなどしている		利用者の対応について職員が思いつめないように、職員一人ひとりの行動等に気を配り、必要に応じて話をする場面を設ける

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者、家族が不安にならないよう不明な点は丁寧に説明し、事業所の事を理解していただくようにしている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の会話から、利用者が感じていることを記録、申し送り等で確認し、不満が日常化しないように改善できるよう早急に取り組んでいる</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>一ヶ月に一回、利用者の様子やご本人様のお預かりしているお金が何に使用されたかお知らせしている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議、面会時などの中でご意見をお伺いし、改善するべきところは職員皆で共有し対応している</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一回、ユニット会議を行い、ケアプラン、業務のことなど話し合い、実践している</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員を日中3人体制にすることで、入居者の希望等に細かく対応できるようにしている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来ている</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルはあるものの、ユニットにあった見直しが行われておらず、早急に改善しなければならない</p>	<p>ユニットに合ったマニュアルを整備し、利用者の対応が職員によって違うことのないようにしたい。現在は、業務の手順等は口頭や会議等で話し合い、記録しているが、マニュアルとして整備されてない</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力等を考慮しながら、県の主催する研修や会社の研修(主にリーダー)に参加している	職員一人一人と定期的に話し合う場を作り、ステップアップするために今、必要なこと、やらねばならないことを伝えていきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの依頼で研修を受け入れることはあるが、積極的な交流は行っていない	○ 地域の同業者などと交流をもてるよう積極的に取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務中の休み時間の確保、時間内に終わる仕事をガラガラとするような長時間の残業をしないよう声をかけあっている	自分のシフト業務を責任を持ってこなすのは当たり前だが、他者の業務にも気を配り、必要あれば協力している
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得のお知らせや定期的に職員の評価を行い、仕事に反映させている	リーダーが月に1回、職員個々の仕事の様子(進め方、入居者のこと、悩みなど)について話し合う場をもつようになっている
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントシートを利用しながら、本人の状態を理解するように努めている。また、入居後も生活の支援を行いながら、困った状況等を見逃さず対応している	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用になるまでの過程の中で、家族が求めていることをきちんとお聞きし、ただ職員側のお話だけすることのないようにしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>対応にあたっての優先順位を見極め、ケアプランを作成し職員に伝えている</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の性格等も考慮にいれて、徐々にホームでの生活に馴染んでもらうよう、何に対しても職員側が無理強いしないようにしている</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者との会話を通じ、昔の生活の様子、知恵など様々なことを学んでいる。また、出来る事出来ない事の見極めをきちんと行い、職員が必要以上に手を出したりすることがないようにしている</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が面会時などに、本人の様子を伝えたり、以前の生活の様子をお聞きしたりして、家族との関係を深めている。ただ、家族の事情により中々、面会に来られない方もいるので、お手紙や電話で必要に応じお話をさせていただくこともある</p>		<p>家族の方が参加できるような行事の企画を行っていききたい。昼食会など。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人がホームでどの様に過ごされているか、細かくお伝えし、家族が職員側に気を遣って言いたい事も言えないような関係だけにはしないようにしている</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>なるべくそうなるようにしている。そのために家族の協力も必要になってくるので、情報交換を密にしながら本人が、落ち着いて過ごせるように支援を行っている</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係を大切にしながら、性格的に合う、合わないもあるので、その点も配慮しながら皆が、穏やかに過ごせるように支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者に対し直接ケアにあたることはなくなるかもしれないが、必要とあればいつでも相談できる体制は整えている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する過程で、本人の心に思っている事を把握し、支援に結び付けている		本人の誕生日会、個別外出などで一人一人の希望を叶えられるようにしている。今後の課題としては、本人の希望を叶えられるように毎日の支援をどの様にするか考えていかなければならない
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族とも情報交換しながら、ホームを利用する前の様子などもお聞きし、支援に役立てている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活スタイルに合わせながら関わるようにしているが、皆に合わせるような行動を利用者に求めてしまうこともある		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からも情報収集しながら、作成している。本人の思いが分かりづらい方でも、日頃の行動、会話から職員が推し量って介護計画を作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しは行っている。その間も見直しが必要な場合は、早急に対応を話し合い、支援にあたっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている。利用者の会話の内容なども記録に残し、職員が本人の事に関しては把握でき、それを実際の関わりに生かしている。が、利用者の行動に対して、「なぜ、このようなことをするのだろうか」というところまで考える事が少ない。場当たり的な考えが多い		もっと利用者の行動に、理由を探るような話し合いをしていきたい。時として、利用者のことを軽蔑するような発言も聞かれ、言葉遣いも含め直さねばならない
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人に関わることは事業所の出来る範囲で、支援している。ただ、出来ないことに関しては、あいまいにせず、お返事させていただいている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に一回、運営推進会議の場で民生委員、ケアマネジャー、家族等と意見交換を行っている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、他サービスを利用したいという希望は聞かれたことはないが、もし、そのような希望があれば話をお聞きし、対応したい		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月1回、運営推進会議を実施し、報告、協力、相談体制を築いている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望をまずお聞きし、以前からお世話になっているかかりつけ医に継続して受診される方もいれば、事業所の近隣の診療所に切り替える方もいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に理解のある医師のもと、利用者の診察をしていただいている。また、相談にもものってくれる		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に3回、看護師が出勤され利用者のバイタルチェックや体調面の相談をさせていただいている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の状態を把握し、退院後の生活に支障がないように対応を検討している		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いをもとに事業所で出来ること・出来ないことを明確にし、考え方を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	定期的な受診(健康診断も含む)を通して、利用者の生活が健康的に過ごせるよう取り組んでいる。また、利用者の状態等から予測される事態にも対応できるよう緊急搬送先の医療機関も把握している		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までどんな環境で過ごされていたかを情報交換し、利用者が混乱しないように努めている。ご本人のためにも知っている情報は包み隠さずお話し、新しい環境に少しでも早く馴染んでくれるように連絡不足のないようにしている		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の訴えることに対して、現実的な対応を優先して利用者のとまどいを助長させる事がある	利用者の話されることを否定せず受けとめ、利用者の納得がいくような対応に努める
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者の思っていることを日頃の関わりの中で上手く引き出すように努めている。そして、職員が何事も決定するのではなく、利用者の方から決めていただくように職員は必要に応じて助言している	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の過ごし方を大切にしながら、皆で一つのことを行うときも無理強いすることはない	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整髪、洗顔、季節に応じた洋服など日々、確認している。理容・美容については必要時、外部の方をお願いしている。また、本人が行きつけの所が良いと言った場合は、家族に協力していただいている	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来ることを把握し、それぞれお茶入れ、台拭き、味噌汁盛りなどの役割をもっていただき、食事の準備にあたっている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望むことはなるべく対応できるように検討している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人に合わせてトイレにお誘いすることで、最初はオムツを使用しているも、外せないか試みている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は一日3～4人くらいの方に入浴していただいている		一人一人の入浴回数を含めて、希望があれば入浴できるような体制作りをしていかななくてはならない
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の様子に応じて、自室で休んでいただいたりしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのことを理解するように努め、本人の意に沿うような日々の暮らしを提供できるように努めている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、少額でも自分の手持ちの現金を持っていたい方もいるので、家族とも相談しながら対応している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日などは、利用者を外出にお誘いするようにしている。楽しみにしている方がたくさんいる		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	3ヶ月に一回ではあるが、一人ひとりの希望を叶えられるように計画作りしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、対応している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	なるべく気を遣わせないように、必要以上に職員が入り込まないようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	環境の部分で、窓ガラスが10センチくらいしか開かないようにしたり、自分のユニットから外出したくとも、職員が対応できなく、声がけを行いその場に留まっていたくように行動を制限させてしまうこともある		利用者によっては自室の窓ガラスは通常に開けられるようにする
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には安全を優先するあまり、鍵をかけてしまっている。各階の移動については日中は自由に行き来できるようにしている		職員同士で、鍵の必要性を議論する必要がある。かけずにいた時の対応方法も合わせて、考える必要がある。安全のためにと、まとめてしまうのでは、職員の進歩もない
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の一人一人の行動を把握し、所在不明はない。また、自室におられるときも、声をかけたりして、さりげなく確認している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	文房具、薬品(ハンドソープ、食器洗剤、洗濯洗剤など)は、所定の場所に保管しておき、まずはそのことによって弊害がないか確かめるようにしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	不定期ではあるが、事業所内で講習会を開催し知識を深めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	連絡方法、応急手当の確認を行い、慌てることなく対応できるよう会議等で確認している		今後も毎月、対応方法を会議で確認していきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行い、利用者をどの様に避難させるかを確認している		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状態から予想される症状や行動を説明し、対応策なども確認している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人の正常な状態をきちんと把握し、ちょっとした変化に気付くようにしている。また、必要な対応も行っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態を把握し、適切な服薬が出来ているかかかりつけの医師と相談している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘を防ぐために運動、水分摂取等を行うよう努めている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きは行っていただいている。必要に応じて、介助や見守りも行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い食事、その他に午前と午後のお茶の時間に水分摂取をしていただいている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗い、うがいを行っている。ノロウイルス対策としても手すり、蛇口などの消毒を毎日、行っている		感染症の予防に対して、後手後手の対応になりやすいので、きちんと予防対策を行えるよう伝える
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布きん、台拭きは毎日、消毒している。生ごみ等の処分も一日一回、必ず行っている。不衛生な環境にならないように努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	お花や野菜などを育てたり、洗濯の物干し竿を置いたりして家庭的な雰囲気にならしているようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日一回、皆と掃除を行うことで、清潔にし、時計、カレンダー、花などを飾り、生活感、季節感が出るよう工夫している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、一人になりたいときなどに活用していただいている。また、リビングや食堂にいるように強制的な声かけは行っていない		リビングや食堂以外にも座る場所などを作り、少人数、一人で過ごしたい時などに活用してもらいたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使いなれた物をお持ちいただき、安心して過ごせるようにしていただいている		入居前にどのような暮らしをしていたかの情報を介護スタッフも入居前に家族と面談する機会をもちたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	必要以上に暑かったり、涼しかったりしないよう配慮している。自室にいらっしゃる場合も快適に過ごせるように定期的に訪室している。特に冬期間は暖房を使用する事もあって、空気が乾燥し易い、汚れやすいので、食後、掃除時に換気する様に決めている。		
び				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差を少なくしたり、手すりの設置、引き戸など自分で出来ることはなるべくしていただくようにしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、生活をする上で支障が生じることを事前に予測し、とまどいや混乱が少なくなるよう対応している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇を作ったり、野菜を育てたりすることで、屋外での活動もできるようにしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の支援に当たって、職員間の対応に温度差が出ないように、自分たちの目指す方向を常に確認しており、文書で保管している。また、より良い支援を行うために経験等で発言の優劣をつけることはなく、利用者にとって「どうなのか」という視点を大切にしている。  
平成20年3月頃から、他階との交流を積極的に進め、楽しみの場をたくさん設けるようにしている。利用者からの反応も良い。また、屋外の活動も利用者は大変、楽しみにしているのもので、利用者の何気ない会話から希望を探り、実行に移している。